



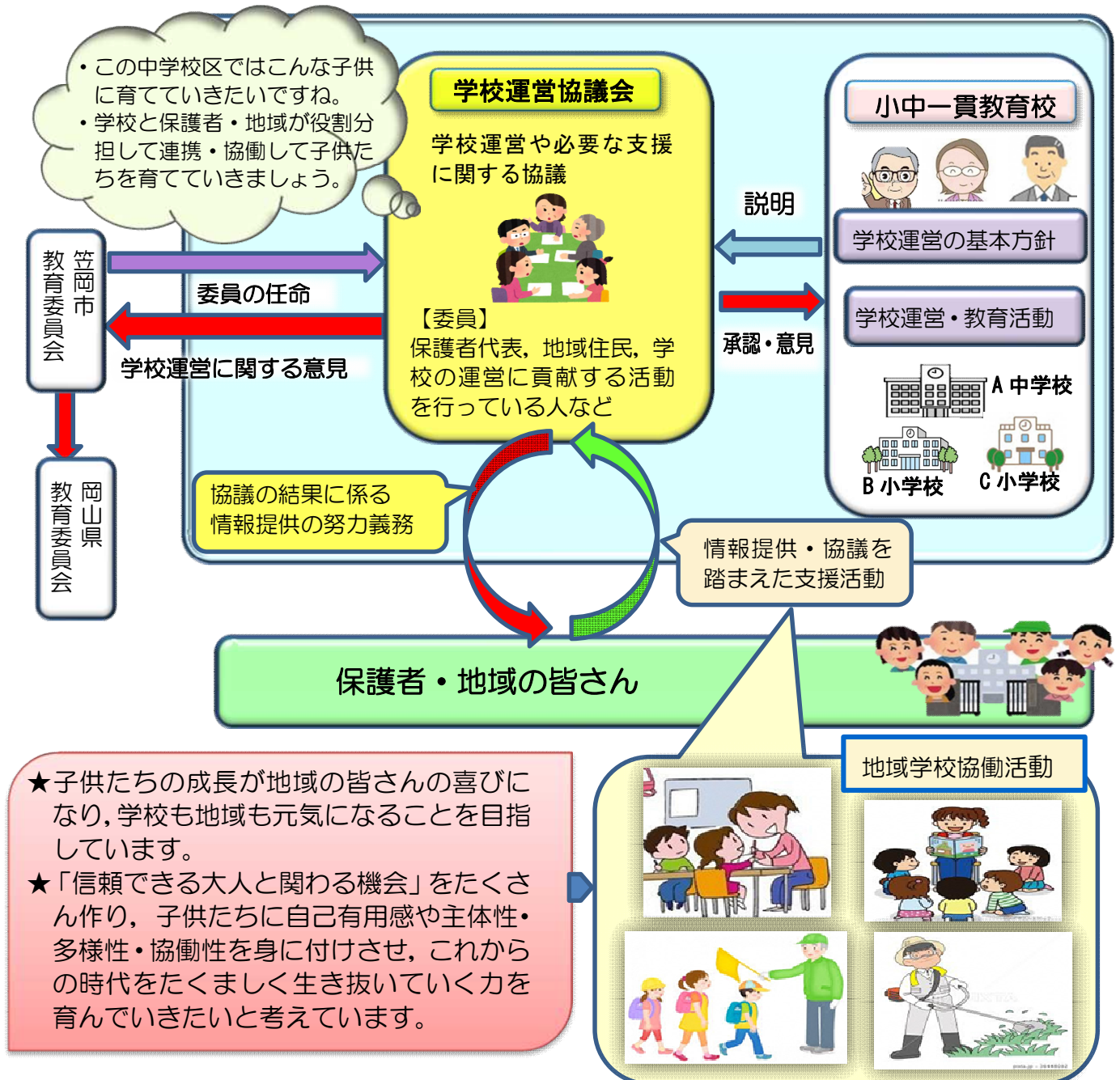
～「学び」「育ち」をつなぎ、自立して共に生きる子どもを育てる～

笠岡市教育委員会 一貫教育推進室

笠岡市は、「学び」「育ち」をつなぎ、自立して共に生きる子供を育てる学校教育を目指し、そのために小中一貫教育を推進していきます。義務教育9年間を通して、どんな子供に育てるのかという目標やビジョンを学校・保護者・地域の皆さんが共有して一体となって子供たちを育てていきます。

そこで、保護者・地域の皆さんの意見や要望などを学校運営に反映する仕組みである**コミュニティ・スクール(学校運営協議会を設置した学校)**を充実させていこうと考えています。

コミュニティ・スクールって何？



～文部科学省のコミュニティ・スクール マイスターを招いて研修会を開催しました～



1月20日(水)に、市内の校長先生・園長先生方を対象にしたコミュニティ・スクールの研修会を行いました。講師は、文部科学省のコミュニティ・スクール マイスター 宮田幸治先生です。コミュニティ・スクールの達人です。「これからの未来を担う子供たちに必要な教育は学校だけで行うものではない」という前提に立ち、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」が大切であるというお話を伺いました。

笠岡市は、令和3年度より保護者や地域住民が一定の権限と責任をもって学校運営に参画する学校運営協議会制度（島嶼部は学校評議員会制度）を充実させて、それぞれの特色を生かした学校づくりを行っていきます。

研修会終了後のアンケートでは、「子供たちにとって充実した有意義な学校になるようがんばりたい」、「学校・家庭・地域が一体となって子供たちの成長を支援し、地域の課題を解決していくコミュニティ・スクールの意義と役割がよく分かりました」等の感想が多く、来年度に向けての校園長先生方の意欲が伝わってきました。

学校・保護者・地域が一体となった取組 大島地区の「てご会」

※

大島地区の地域学校協働本部では、毎月1回、定例会が行われ、学校や家庭・地域の子供たちの課題を共有し、解決に向けた取組について話し合いが行われています。（今年度はコロナ禍で縮小して実施しています。）定例会の名前は「てご会」。「てご」は方言で「手伝い」という意味です。「てご会」の話し合いにより、小学校の授業・体験活動の支援や登下校の見守りを行ったり、中学校のソフトテニス部の部活動を地域住民が指導したり、小中学校の環境整備や資源回収を手伝ったりと幅広い活動が実施されています。



※地域学校協働活動とは、地域全体で子供たちの学びや成長を支え、学校と地域がパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

